

本会の支援により農商工等連携の 事業計画が認定！ ～秋田印刷製本株式会社～

去る2月10日、本会が地域力連携拠点事業の一環として支援を行っている秋田印刷製本株式会社（代表取締役大門一平氏、秋田市）と米作農家伊藤巧一氏（秋田市雄和）が共同申請した農商工等連携事業の事業計画が東北経済産業局の認定を受けた。事業計画名は「包装開発と地元農家米の栽培管理により高付加価値化した『単一農家米』の販路拡大」で、本県では7件目の認定となった。

本トピックスでは、事業計画の概要及び農商工連携の経緯等について、秋田印刷製本(株)大門一平社長（本会理事）へのインタビューを基にご紹介します。



秋田印刷製本(株)大門社長

農商工連携の背景と経緯

平成の大合併により、印刷業界は需要の激減と過当競争の時代に突入しました。一方、稲作は減反と買い取り価格の下落が続いていました。

このような中、私（大門社長）の20年来の知り合いで米作農家の伊藤氏から「米を会社で買い取ってくれないか」と相談されたことをきっかけに、地元農業支援及び社員教育の一環として、平成19年から農作業の手伝いを開始しました。翌年、私の全国の知り合いにこの米の試験販売を行ったところ、購入者から旨みと品質への高い評価を得たことで、社内に米プロジェクトチームを設置し、少量販売への企画とパッケージの開発に着手しました。

続く平成21年には1kgの米を真空包装して紙の筒に入れることで、酸化防止と開封後に冷蔵庫で保管できるパッケージを開発し、3本と5本の詰合せセットによる贈答品として販売したところ、大きな反響を得ました。



試作した容器

これらの試験販売を踏まえ、新たな需要開拓の見込みが高いと判断し、農商工連携の支援を行っている秋田県中央会を訪ね、本格的な開発と商品化、販路拡大に取り組むことになりました。

連携事業の主な取り組み内容

伊藤氏は有機肥料や臨海食品協業組合から供給される「おから」等によって作る新たな堆肥で土壌改良等を行い、米の品質向上と小規模農家のグループ化によるスケールメリットの追及を行います。

当社は、主として贈答用商品の企画・改良に努め、秋田パッケージ(株)「紙器製造技術」との連携により、商品コンセプトや包装デザイン、計量機能を持つキャップ等の共同開発を行います。

また、他の製品（いぶりがっこや稲庭うどん等）とコラボレーションした製品の開発や販売チャネルの増設を担うWeb販売の拡大並びに生産情報の提供を行い、販路拡大に取り組みます。

事業のねらい

中小企業と小規模農家が連携し、お互いの能力を発揮しあうことで、厳しい環境からの脱却を目指すビジネスモデルを確立し、連携先を拡大しながらステップアップと需要の拡大につなげていきたいと思っています。

中央会より

今回の秋田印刷製本株式会社及び伊藤巧一氏による農商工連携事業は、全く新しい取り組みであり全国の注目を集める事例である。

従来の農商工連携は原則として農林水産物の「加工」がキーワードであり、食料品製造企業と農林業業者との連携が殆どであった。

今回は、「印刷業」と「農業」が加工を伴わず、お互いの強みを生かして、「新たな販路の開拓」を中心とした連携事業となっているものである。

本会としては、中小企業のあらゆる可能性を信じて、既成の概念にとらわれず、様々な支援を行っていくこととしていますので、是非お気軽にご相談下さい。

「包装開発と地元農家米の栽培管理により高付加価値化した『単一農家米』の販路拡大」の概要

